

平成 29 年度自己評価シート(中間評価)

| | | | | | | | |
|----|-----|-----|--------------|------|-------|-------|-----|
| 校番 | 121 | 学校名 | 広島県立大崎海星高等学校 | 校長氏名 | 中原 健次 | Ⓐ・定・通 | Ⓑ・分 |
|----|-----|-----|--------------|------|-------|-------|-----|

| 学校経営目標 | | | | | |
|--|---|---------|---|--------------------|------|
| | 達成目標 | 本年度行動計画 | 評価 | 理由 | 担当部等 |
| 1 学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。 | | | | | |
| ①中高連携を推進している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事(体育祭・文化祭等)における生徒の交流を活性化させる。 ・部活動における交流(合同練習等)を積極的に取り入れる。 ・相互の教育相談(高校教員による中3生への進路相談, 中学校教員による高1生へのカウンセリング)を実施する。 ・相互の授業参観を実施する。 ・島内中学校の出前授業を毎週行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・高校教員による中3生の進路相談を3日間で実施した。 ・島内中学校で月曜日に数学, 英語の授業を行っている。 | 全校 | |
| ②地域学習「大崎上島学」を実施し、地域に誇りを持ち、地域に貢献する生徒を育成している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「大崎上島町幼小中連携プロジェクト」との連携のもと、既習事項と関連付けながら系統的な学習となるよう配慮し実施する。 ・「大崎海星高校魅力化推進チーム」ミーティングにおいて、実施後の評価と課題の整理を行うとともに平成 30 年度から実施する「大崎上島学Ⅲ」の実施計画を作成する。 ・『大崎上島学』成果発表会を継続して開催する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・大崎上島学と既習事項を関連付ける指導計画を作成している。 ・大崎上島学Ⅲの実施計画を作成している。3 学期には研修を実施する予定である。 | 教務部 リサーチ 担当者 | |
| ③教育活動等について積極的に情報発信している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校情報誌を年間 11 回以上発行し、地域及び島内中学生等に配布する。 ・HP で本校の活動状況を発信する。 ・学校案内(パンフレット)を広域に配布する。 ・町広報の活用など、島内への情報発信の方法を工夫する。 ・町内放送の活用により、学校行事(文化祭, 体育祭)の案内を発信する。 ・マスコミへの情報提供も含め、広域への情報発信の方法を工夫する。 ・近隣の高等専門学校と連携し、本校の情報発信を行う。 ・県外の生徒募集に関して、関係機関と連携し、計画的な広報活動を行う。 ・次年度以降の学校案内を作成する。 ・「大崎海星高校見学ツアー」を継続して開催する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・学校情報誌(海星だより)の発行では概ね計画通りに進んでいる。 ・10月16日現在34回以上HPを更新した。 ・新聞やテレビ等のマスコミを通して情報発信することができた。 ・県外からの生徒募集のため、今年度は県外での説明会を10回実施し、8月には学校見学ツアーを実施した。 | 教務部 進路指 導部 | |

【評価結果の分析】

①中高連携の推進

・島内中学校の中学3年生に対して、高校教員による進路相談を6月下旬から7月上旬にかけて実施した。中学生アンケート「進路相談は、あなたにとって有意義でしたか」「来年度以降も、継続したほうがいいですか」という質問に対し、どちらも肯定的な意見が100%であった。

・今年度新たに島内中学校において、1学期末の三者懇談時に個別相談のブースを設置させていただいた。本校職員と公営塾スタッフで面談を実施した。5組に訪問いただき、本校について詳しく紹介することができた。

②地域学習「大崎上島学」の実施

・大崎上島学の授業内容と既習事項との関連付けに課題がある。来年度実施の大崎上島学Ⅲ(航界学)について、1学期より年間計画の作成に入っており、リサーチⅢとの再構成を検討している。

③情報発信

・学校案内(パンフレット)は、島内中学校に5月に開催された進路説明会において、生徒全員及びその保護者に配布した。6つの周辺の中学校を訪問し、学校案内セットを5部ずつを配布した。民泊型修学旅行で大崎上島に来島する大阪府の11中学校の3年生及び教職員に配布した。

・東京・大阪で10回説明会を開催し、個別相談や学校案内(パンフレット)の配布を行った。

・今年度より生徒の視点で、主体的に本校及び大崎上島の魅力を発掘し、発信していく活動をするための組織である「みりょくゆうびん局」を創設した。東京で開催された2回の説明会では、「みりょくゆうびん局」の生徒が学校紹介を行った。また、大崎海星高校見学ツアーでは、生徒による学校紹介、案内が好評であった。

・中国新聞、東京新聞、朝日新聞、大阪日日新聞、テレビ新広島及び広島テレビに情報を提供し、本校の情報を発信できた。特に6月に行われた「旅する權伝馬」にはテレビ新広島の担当者が同行し、密着取材を受けた。見学ツアーに同行された中国新聞も記事を掲載していただいた。

・近隣の高等専門学校と連携し、本校の学校案内セットを関東地方及び西日本の中学校や教育委員会などに配布した。

・県外からの生徒募集に関する説明会は回数を重ねるごとに保護者からの問い合わせが増えてきている。また、8月10日、11日には「大崎海星高校見学ツアー」を開催し5組10名の参加があった。アンケートから「生徒による学校案内がよかった」という意見を全員からいただいた。

【今後の改善方策】

①中高連携の推進

- ・島内中学校の中学3年生を対象とした進路相談は、6月中に三日連続して実施できるよう早期に調整する。
- ・相互の授業参観を実施するには、行事予定や参加できる体制づくりが必要である。

②地域学習「大崎上島学」の実施

- ・大崎上島学の授業内容と既習事項との関連付けが十分でない。今年度カリキュラムマップを作成することにより、相互の関連性を持たせた授業づくりを目指す。

③情報発信

- ・新たに来年度以降向けの学校案内を作成する。また神峰学舎スタッフとも情報共有して公営塾パンフレット、全国募集パンフレットを作成する。
- ・説明会や講演会など、生徒の視点で本校の魅力を発信する「みりょくゆうびん局」が活躍する場を増加させる。
- ・県外の生徒募集は、今年度の説明会には中学2年生や中学1年生が多く参加しており、この学年に目を向けた広報活動が必要である。

| 学校経営目標 | | | | |
|---|---|----|--|------------|
| 達成目標 | 本年度行動計画 | 評価 | 理由 | 担当部等 |
| 2 特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。 | | | | |
| ①生徒指導の三機能を生かした授業づくりを推進することにより、生徒の自己肯定感が高まるとともに、生徒は基礎的な知識及び技能を習得している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・すべての授業において、「目標の板書」「振り返り」「流れの明示」を実施する。 ・個別の指導計画に基づいた実践を行い、学期毎に評価・改善を図る。 ・個別の教育支援計画に基づき、保護者や保健、福祉、医療等の教育関係機関と連携して支援を行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・授業において、「目標の板書」「振り返り」「流れの明示」を実施している。 | 教務部 各教科 |
| ②能動的な学びを推進することにより、生徒の主体的に学ぶ態度が育成されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングについて研究し、授業へ積極的に導入する。 ・ICTを積極的に導入する。 ・ICEモデルの研究を通して、ICEモデルを活用した学習指導案を作成し、実践する。 ・大崎海星高校の生徒の実態に適した「主体的学び」を促す授業モデルを確立する。 ・定期考査において活用問題を出題する。「身に付けたことを用いて考える力」を養う問題になっているか研修会等で検討する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・ICEモデルを活用した年間評価計画を作成している段階である。 ・大崎海星高校の授業モデルの研究を進めている。 ・定期考査において、活用問題を出題している。 | 教務部 各教科 |

【評価結果の分析】

- ・学校評価アンケート「学校の授業では、「本時の目標」が板書されている」が昨年度末の評価と比較すると、0.2ポイント向上している。
- ・学校評価アンケート「学校の授業では、「振り返り」の時間がある」が昨年度末の評価と比較すると、0.1ポイント向上している。
- ・学校評価アンケート「学校の授業では、話し合うなどの活動を通して、考えたり、問題を解決したりする場面はあると思う」が昨年度末の評価と比較すると、0.2ポイント向上している。
- ・本校の「主体的な学び」を促す授業モデルの確立に向けて、ICEモデルを活用した年間評価計画を作成中である。
- ・ICTを利用するため、今年度プロジェクターを1台購入し、授業等で活用できるようにした。
- ・昨年度から継続して定期考査において「身に付けたことを用いて考える力」を養う「活用問題」を出題している。

【今後の改善方策】

- ・授業における「本時の目標」や「本時の流れ」の提示について、すべての授業で実施できるように授業者に再度周知する。
- ・深い学びに繋げるため、「話し合いの場面」を多く設定する。
- ・年間評価計画を実践検証しながら、本校の目指す生徒育成のため授業改善に取り組む。

| 学校経営目標 | | | | |
|----------------------------------|--|----|--|---------------------|
| 達成目標 | 本年度行動計画 | 評価 | 理由 | 担当部等 |
| 3 きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。 | | | | |
| ①組織的な進路指導体制により、生徒の進路第一希望が実現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導計画(大崎海星高校ロードマップ)に基づき、計画的・組織的な進路指導を行う。 ・国語・数学・英語を中心とした年間指導計画を作成し、生徒・保護者に周知し、学校と公営塾が連携して指導する。 ・進路検討会議を実施し、全教職員が全生徒の指導方針を共有する。 ・公営塾との連携を密にし、学校と公営塾が一体となった指導体制を確立する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導計画を作成したが、進捗管理が十分でない。 ・進路検討会議を7月に実施し、生徒の指導について、教職員で確認した。 ・公営塾ミーティングを原則週1回設けて、これまでに25回実施した。 | 進路指導部 公営塾 担当者 |

【評価結果の分析】

- ・公営塾と連携し、生徒の年間指導計画(個別のカリキュラム)を作成した。公営塾と協力し、指導しているが進捗管理が十分でない。
- ・AO推薦講座を4月に開始し、これまでに25回実施した。探究活動や論文作成を通して論理的思考力が身に付き、面接でも自分の意見を発信出来るようになった。

【今後の改善方策】

- ・生徒の個別のカリキュラムを計画通り進めるため、進捗管理をしながら根気よく指導する。
- ・3年生の面接指導について、試験までに担任、進路指導部、他の教員及び管理職との面接練習を行い、試験を迎えられるように計画を立てる必要がある。また面接指導においても、海星高校スタイルを確立し、全ての教職員が同じように生徒に指導できる体制づくりも必要である。
- ・AO推薦入試対策講座は週1回月曜日に実施している。この講座の効果をあげるためには、早期に生徒の進路希望を確定させることが必要である。対象となる生徒に対して、早期に面談等を実施する。

| 学校経営目標 | | | | |
|--|--|----|--|-------|
| 達成目標 | 本年度行動計画 | 評価 | 理由 | 担当部等 |
| 4 生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道德教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。 | | | | |
| ①生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせ、自己指導能力を高めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の三機能を生かした教育活動を展開し、生徒の自己指導能力を高める取組を実践する。 ・SHR、授業におけるベルスタートを徹底させる。 ・日々の遅刻結果を生徒に示すとともに、遅刻の多い生徒に対する指導を強化する。 ・遅刻の減少に向けて、「反省文を書かせる」、「保護者を召喚する」など厳しい指導を行う。 ・生徒指導部による登校指導を、全教職員でかかわれるように計画的に取り組む。 ・生徒会を中心とした挨拶運動など主体的な活動を促していく。 ・正しい制服の着用の仕方や違反について、年度当初に全校で確認をし、生徒も教職員も共通理解を図り学校全体で指導していく。全教職員で月間目標を重点的に指導する。 ・校内巡回指導を実施し、授業中に集中できていない生徒へ教室の内外から声かけや支援を行い、学習環境を整える。 | C | <ul style="list-style-type: none"> ・教員は授業開始前に教室に入り、ベルスタートを指導している。 ・毎朝登校指導をおこなっているが、遅刻者が固定化されている。 ・一部制服を正しく着用できていない生徒がいる。 ・校内巡回指導は適宜行うようにしており、集中していない生徒への声掛けもできている。 | 生徒指導部 |
| ②生徒に人間としての在り方生き方を考えさせ、豊かな心を育てている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や日常生活におけるマナー指導を徹底する。 ・地域や同窓会の社会人を講師とした講演会を複数回行う。 ・地域と協働した校外清掃を実施する。 ・ボランティア・バンクの活動を通して、奉仕の精神を涵養させる。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒集会や登校指導時に生活面や服装面の指導を実施している。 ・ボランティアに参加する生徒が増えた。 | 生徒指導部 |

【評価結果の分析】

- ・ベルスタートは概ねできているが、教員の指導がかなり必要であり、生徒自ら落ち着いたスタートができていないところもある。
- ・保護者アンケートでは、「挨拶」「制服の着用」「決まりを守れている」の実績値は、昨年度末より横ばいか、わずかであるがポイントがあがっている。
- ・身だしなみについては、指導すれば正す生徒がほとんどであるが、意識の薄い生徒が少なからずいる。
- ・教員により指導に温度差があり、指導が徹底できていないところもある。
- ・地域清掃や福祉施設の訪問、各地区の祭りや催し物へのボランティアに毎回複数名の参加があり、地域貢献ができています。

【今後の改善方策】

- ・遅刻する生徒・保護者と面談をし、生活改善の指導を行う。
- ・身だしなみ指導を兼ねた朝の挨拶指導を校門で行う。そのための教員の複数配置を計画する。
- ・組織的な生徒指導ができるよう研修会をもつ。

平成29年度自己評価シート(中間評価まとめ)

| | | | | | | | |
|----|-----|-----|--------------|------|------|-------|-----|
| 校番 | 121 | 学校名 | 広島県立大崎海星高等学校 | 校長氏名 | 中原健次 | ☎・定・通 | ☎・分 |
|----|-----|-----|--------------|------|------|-------|-----|

1 評価結果の分析

[1] 学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。

①中高連携の推進

・島内中学校の中学3年生に対して、高校教員による進路相談を6月下旬から7月上旬にかけて実施した。中学生アンケート「進路相談は、あなたにとって有意義でしたか」「来年度以降も、継続したほうがいいですか」という質問に対し、どちらも肯定的な意見が100%であった。

・今年度新たに島内中学校において、1学期末の三者懇談時に個別相談のブースを設置させていただいた。本校職員と公営塾スタッフで面談を実施した。5組に訪問いただき、本校について詳しく紹介することができた。

②地域学習「大崎上島学」の実施

・大崎上島学の授業内容と既習事項との関連付けに課題がある。来年度実施の大崎上島学Ⅲ(航界学)について、1学期より年間計画の作成に入っており、リサーチⅢとの再構成を検討している。

③情報発信

・学校案内(パンフレット)は、島内中学校に5月に開催された進路説明会において、生徒全員及びその保護者に配布した。6つの周辺の中学校を訪問し、学校案内セットを5部ずつを配布した。民泊型修学旅行で大崎上島に来島する大阪府の11中学校の3年生及び教職員に配布した。

・東京・大阪で10回説明会を開催し、個別相談や学校案内(パンフレット)の配布を行った。

・今年度より生徒の視点で、主体的に本校及び大崎上島の魅力を発掘し、発信していく活動をするための組織である「みりょくゆうびん局」を創設した。東京で開催された2回の説明会では、「みりょくゆうびん局」の生徒が学校紹介を行った。また、大崎海星高校見学ツアーでは、生徒による学校紹介、案内が好評であった。

・中国新聞、東京新聞、朝日新聞、大阪日日新聞、テレビ新広島及び広島テレビに情報を提供し、本校の情報を発信できた。特に6月に行われた「旅する権伝馬」にはテレビ新広島の担当者が同行し、密着取材を受けた。見学ツアーに同行された中国新聞も記事を掲載していただいた。

・近隣の高等専門学校と連携し、本校の学校案内セットを関東地方及び西日本の中学校や教育委員会などに配布した。

・県外からの生徒募集に関する説明会は回数を重ねるごとに保護者からの問い合わせが増えてきている。また、8月10日、11日には「大崎海星高校見学ツアー」を開催し5組10名の参加があった。アンケートから「生徒による学校案内がよかった」という意見を全員からいただいた。

[2] 特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。

・学校評価アンケート「学校の授業では、「本時の目標」が板書されている」が昨年度末の評価と比較すると、0.2ポイント向上している。

・学校評価アンケート「学校の授業では、「振り返り」の時間がある」が昨年度末の評価と比較すると、0.1ポイント向上している。

・学校評価アンケート「学校の授業では、話し合うなどの活動を通して、考えたり、問題を解決したりする場面はあると思う」が昨年度末の評価と比較すると、0.2ポイント向上している。

・本校の「主体的な学び」を促す授業モデルの確立に向けて、ICEモデルを活用した年間評価計画を作成中である。

・ICTを利用するため、今年度プロジェクターを1台購入し、授業等で活用できるようにした。

・昨年度から継続して定期考査において「身に付けたことを用いて考える力」を養う「活用問題」を出題している。

[3] きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。

・公営塾と連携し、生徒の年間指導計画(個別のカリキュラム)を作成した。公営塾と協力し、指導しているが進捗管理が十分でない。

・AO推薦講座を4月に開始し、これまでに25回実施した。探究活動や論文作成を通して論理的思考力が身に付き、面接でも自分の意見を発信出来るようになった。

[4] 生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育てる。

・ベルスタートは概ねできているが、教員の指導がかなり必要であり、生徒自ら落ち着いたスタートができていないところもある。

・保護者アンケートでは、「挨拶」「制服の着用」「決まりを守れている」の実績値は、昨年度末より横ばいか、わずかであるがポイントがあがっている。

- ・身だしなみについては、指導すれば正す生徒がほとんどであるが、意識の薄い生徒が少なからずいる。
- ・教員により指導に温度差があり、指導が徹底できていないところもある。
- ・地域清掃や福祉施設の訪問、各地区の祭りや催し物へのボランティアに毎回複数名の参加があり、地域貢献ができています。

2 今後の改善方策

〔1〕学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。

①中高連携の推進

- ・島内中学校の中学3年生を対象とした進路相談は、6月中旬に三日連続して実施できるよう早期に調整する。
- ・相互の授業参観を実施するには、行事予定や参加できる体制づくりが必要である。

②地域学習「大崎上島学」の実施

- ・大崎上島学の授業内容と既習事項との関連付けが十分でない。今年度カリキュラムマップを作成することにより、相互の関連性を持たせた授業づくりを目指す。

③情報発信

- ・新たに来年度以降向けの学校案内を作成する。また神峰学舎スタッフとも情報共有して公営塾パンフレット、全国募集パンフレットを作成する。
- ・説明会や講演会など、生徒の視点で本校の魅力を発信する「みりょくゆうびん局」が活躍する場を増加させる。
- ・県外の生徒募集は、今年度の説明会には中学2年生や中学1年生が多く参加しており、この学年に目を向けた広報活動が必要である。

〔2〕特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。

- ・授業における「本時の目標」や「本時の流れ」の提示について、すべての授業で実施できるように授業者に再度周知する。
- ・深い学びに繋げるため、「話し合いの場面」を多く設定する。
- ・年間評価計画を実践検証しながら、本校の目指す生徒育成のため授業改善に取り組む。

〔3〕きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。

- ・生徒の個別のカリキュラムを計画通り進めるため、進捗管理をしながら根気よく指導する。
- ・3年生の面接指導について、試験までに担任、進路指導部、他の教員及び管理職との面接練習を行い、試験を迎えられるように計画を立てる必要がある。また面接指導においても、海星高校スタイルを確立し、全ての教職員が同じように生徒に指導できる体制づくりも必要である。
- ・AO推薦入試対策講座は週1回月曜日に実施している。この講座の効果をあげるためには、早期に生徒の進路希望を確定させることが必要である。対象となる生徒に対して、早期に面談等を実施する。

〔4〕生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。

- ・遅刻する生徒・保護者と面談をし、生活改善の指導を行う。
- ・身だしなみ指導を兼ねた朝の挨拶指導を校門で行う。そのための教員の複数配置を計画する。
- ・組織的な生徒指導ができるよう研修会をもつ。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・生徒が学校の魅力を全国へ届けるみりょくゆうびん局を今年度より立ち上げたが、説明会や講演会等でのプレゼンテーション、ホームページの作成など生徒が活躍する場を増やしていく。
- ・挨拶は学年があがるにつれてだんだんと挨拶をしなくなる傾向がある。現在の挨拶指導を継続し、日常的にきちんと挨拶ができる生徒を育成する。
- ・勉強と部活動でしっかり鍛えることが必要で、それが広く認知されれば更なる生徒確保につながる。

平成 29 年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成 29 年 10 月 24 日

| | | | | | | | |
|----|-----|-----|--------------|------|------|-------|-----|
| 校番 | 121 | 学校名 | 広島県立大崎海星高等学校 | 校長氏名 | 中原健次 | Ⓐ・定・通 | Ⓑ・分 |
|----|-----|-----|--------------|------|------|-------|-----|

| 評価項目 | 評価 | 理由・意見 |
|--------------------|----|--|
| 目標, 指標, 計画等の設定の適切さ | A | <ul style="list-style-type: none"> ・適切に設定されていると思う。 ・概ね適切である。よく出来ている。 |
| 計画の進捗状況の評価の適切さ | A | <ul style="list-style-type: none"> ・適切に評価され, 成果と課題がよく分かる。 ・概ね適切である。 |
| 目標達成に向けた取組の適切さ | B | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろと工夫しながら取り組んでいる姿がうかがわれた。 ・目標内容は良いが, 生徒指導などもう少し厳しい取組が必要である。 |
| 評価結果の分析の適切さ | A | <ul style="list-style-type: none"> ・適切に分析し, 次の課題へとつながっている。 ・良く出来ている。 |
| 今後の改善方策の適切さ | B | <ul style="list-style-type: none"> ・適切に方策が立てられている, 今後に期待する。 ・改善策は良く出来ているが, 実現に向けた内容の検討が必要である。 |
| 総合評価 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろと努力している。これからも期待している。 ・総合的によく出来ている。この内容を実現するためには教員のレベルアップが必要である。幼小中との連携を強くし, 学校の存続に役立てて欲しい。 ・様々なことに取り組んでおり, 地域住民としても大崎海星高校を応援していきたい。 |